

茅ヶ崎市が健康経営を推進する目的

社会的状況と茅ヶ崎市の状況

少子高齢化の進展に伴う生産年齢人口の減少、従業員の高齢化、大地震や風水害など予期しない大規模な災害発生リスクの増大、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症を始めとする未知の新興感染症が発生する可能性など、不測の事態に対しあらゆる現場において限られた人員体制で対処していかなければならない時代を迎えています。

こうした社会的な状況を背景にしながら、世界中で持続可能な社会の実現を目指す SDGs の取組が進んでいます。この理念は、将来にわたって持続可能なまちであり続けることを目指し、多様な主体との連携・協力により取組を進めるものであり、茅ヶ崎市においても「茅ヶ崎市総合計画（以下、総合計画という。）」で、各政策目標の達成に向けた取組が、どの SDGs に寄与するかを明らかにして持続可能なまちづくりを進めています。

茅ヶ崎市では人口増加が令和 6(2024)年にピークに達し、これからは緩やかに減少に転じていくことが見込まれており、今後は少子高齢化、生産年齢人口の減少、職員の高齢化などが、全国と同じ状況に向かっていくことが予想されています。今後、行政経営を進めるにあたっては、大規模災害や新興感染症など不測の事態に備えつつ、限られた人員体制でより一層効率的・効果的に仕事を進めて行く必要があります。

茅ヶ崎市の目指す姿

茅ヶ崎市では令和 12(2030)年を目標年次とするまちづくりの基本的な指針として総合計画を策定しており、茅ヶ崎市が目指す将来の都市像を「笑顔と活力にあふれ みんなで未来を創るまち 茅ヶ崎」と定めています。

全ての市民がそれぞれの個性を発揮し、まちづくりの原動力である市民活動や地域経済といった「活力」が増すことによって、今後予想される難局を乗り越え、未来を創造していくことを目指しています。

健康経営推進の必要性

茅ヶ崎市が目指す姿の実現に向け、全ての職員がやりがいを持っていきいきと働き、一人一人が持つ能力を最大限発揮していくには、何よりも職員が心身ともに健康であることが必要です。

そのために健康経営の推進に取り組み、職員の心身の健康保持・増進を図り、ワークライフバランスの取組などを通じた働きやすい職場環境づくりを行い、組織の活性化を図っていきます。